

Title	ウイッテ伯著 国民経済並財政講義
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.5 (1914. 6) ,p.619(113)- 621(115)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140601-0113">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140601-0113</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

至るヒックス、ビーチ氏編成の七豫算、千九百三年のリッチー氏編成の豫算、千九百四年より千九百五年に至るチエンバーレン氏編成の二豫算、千九百六年より千九百八年に至るアスキス氏編成の三豫算、千九百九年より千九百十二年に至るロイド、デヨーチ氏編成の四豫算に就て、其綱要を掲ぐると同時に豫算案討議當時、議院の外に起れる評論を摘記したり。第二編は二十五年間に於ける歳計の統計表にして、第三編は豫算案を解釋し、又之に關する評論を判斷するに必要なる數字を以て之に充て、是等の數字は一面に於て、最近二十五五年間に於ける英國財政並に經濟の發達を説明するに足るの觀あり。

マレット氏の如何なる人なるやは、評者の寡聞なる之を知らずと雖も、本書に於ける評論の公平にして、且つ所屬黨派の如何に拘はらず、時の當局者に對して、大なる同情を表せるは、本書の價値を大ならしむるの特色として、之を擧

げざる可からず。千八百八十八年の公債借換計畫に對して、「此計畫には近時コンソール公債の市債著しく低落せるが爲めに、種々の批評を聞く」と雖も、十九世紀の末年に於けるが如く、此公債の市價に異數の騰貴を見たる以上は、何人が大藏大臣たるも、借換の提案を拒絶する能はざる可く、而して借換を行ふものとすれば、ゴツシエン氏の擇びたる時に於て、之を爲すを適當としたり」と云へるが如き、又ロイド、デヨーチ氏の財政計畫が概して成效の緒に就ける事情を明にし、殊に最後の斷案として、「經濟上の見地より觀察するときは、社會改良の計畫に要する經費に對する當否の斷定は國民の生産的能力並に勞働の効程を増進するを得る事實の有無に依らざる可からず。此目的にして到達せられんか社會の消費力、各種貨物に對する需要、其需要に應ずる權能は共に増進し、納税力は一方に増加する負擔と共に、伸張するに至る可し。固より

負擔に堪へ得る租税を以て、限度す可きは論を俟たずと雖も、以上の事情の存する以上は、新政策の成敗は單に一時の結果に依て、之れを定むる能はず、極端なる悲觀論も、樂觀論も今日之れを言ふは尙早の嫌なき能はず」と論じたるが如き、共にマレット氏が一箇の財政記述者に非ず、又財政統計の編纂者に非ず、財政上の事件を論斷するに確乎たる見識を備ふるの人なることを明にするものと云ふ可し。

之を要するに最近二十五五年間の英國財政事歴は波瀾あり、曲折あり、而して研究の資料に富むこと、他國の五十年又は百年間に於ける財政史に勝るものあり。今、本書の如き、財政史として公平なる著書を得たるは、研究者に一道の光明を與へたるものとす可し。(堀江歸一)

ウィッテ伯著『國民經濟並財政講義』  
Graf Witte, Vorlesungen über Volks und  
Staatswirtschaft.  
「グループ」「シーメンス」「カーネギー」「ロックフェラー」等の如き企業界に於ける大立物の實傳を繙きし人は、誰人も經濟上に於ける活動が如何に吾人の精神的要素に起因することを認むるを得ん、斯くの如きは單に企業上に止まらずして同時に國家經濟にありても之れを指導する人物が眞に鞏固なる意志の人たると共に伶俐達見の人物たることによりて、著しく發展の狀態を異にするに至る可し、此見地より觀察して、吾人に最も興味を與ふるものは、伯「ウィッテ」の本著となす。

今を去る約十年前に「ウィッテ」伯は國民經濟及財政に就きて「ミハエル、アレサンドロヴィチ」大公に自己の懷抱せし處を述べしことあり、本書は實に此講義を増補訂正して世に公にせしもの

のにして、其内容豊富、殊に露國に關する部分に本著の特色として認む可きもの多し、而して本著は紙數の約三分の二を國民經濟に、三分の一を財政學に費し、卷頭先づ吾人の經濟行爲の基礎を以て吾人の生存上の慾望に基くとなし、次で個人、家族等に關する私經濟組織と共同經濟が進んで國民經濟及世界經濟となる所以を明かにし、就中、國民經濟の階段を敘述せる際、商工業の見る可きものなき農業的國家の狀態にある露國の發展を明かにせり、又、生産篇に於て露國の現狀を論せり、即ち露國本土に於ける土地の五分の一は何等價值なき部分にして、炭田と鑛山とは共に地理上極めて不適當なる地位にあり、何んとなれば此兩者は露國に於ける主要なる工業地たる「モスカウ」及「ウラヂミル」兩州を去ること遠く、「ペテルスブルグ」と「リガ」の工場は止むなく外國炭を輸入せり、又、「ウラ」の豊富なる鑛山は其附近に炭田を有せざる

結果、採鑛上、木炭を使用せり、更に進んで、伯は勞力と人口問題とを罔聯して説明し、其間生産的職業に全人口の約五分の四を有する佛蘭西及普魯西の如き國家を稱揚せり、尙ほ人口移動の現象を説明せる中に、露國の生産率の多きことを論せり、即ち西部歐洲の諸國中、生産率にて最も多きは獨逸及奧太利の三十二人乃至三十六人(人口千人に就き)にして、露國は之れに對して、四十四人半以上の數を現せり、となせり、尙ほ伯は内國産業の極端なる保護論者にして、之れを證明する爲め、彼は歴山三世の工業及商業政策が著しく露國の産業を發達せしめしことを以てせり、而して工業の發達につれて當然發生する勞働者問題に就きては、彼は熱心に國家の保護干渉を主張せり、次ぎに貨幣、銀行及信用制度に關しては國民經濟篇の約四分の一以上に亙り、極めて透徹的に説明し、其間、露國有數の財政通たる伯の面目を躍如たらしめ

り、尙ほ國民經濟篇最後の部分に於て所得問題を經濟上殊に社會政策上より論究し、轉じて財政篇にては財政組織、豫算、其歴史等を説明し、殊に國家收入の部に於て露國に於ける諸税及手数料等を最も明白に説明し、更に市町村自治體の組織及其財政狀態を敘述するによりて、本著を終れり、我等は實に本書によりて露國を近世化したる伯「ウイッテ」の精力と達見とを窺ふを得可し。(阿部生)

石原醫學士著「女工之現況」

國家醫學會發行

著書が我邦に於ける各工場的女工を精査研究せし結果によれば、未成年女工は女工總員の六割強に當り、又、女工の勤續年月は比較的短く、二箇年以上勤續せるものは僅かに總員の三割位にして、次ぎに工場在籍中の死亡率は一千人に對し八人内外、而して其過半数は結核性なり、

加ふるに疾病未治なる故を以て解雇されたるもの、過半も同病患者なりとす、而して著書が得たる結論にして、最も重要な點は(一)本邦婦女子にして工業に従事せし者は従事せざるものに比し、多數の死亡者を發生し、併せて結核性疾患及脚氣の割合増進せるは疑ふ可からざる事實なること(二)本邦工業の經營狀態は従業者の健康を一般に比し劣悪ならしめつゝある明瞭なる事實ある事なりとす、想ふに此著は衛生上の見地より見たるものなるも、我邦に於ける社會問題の研究に従事する士にとりては、其間幾多の參考材料となるもの少からざる可し。我等は著者の調査研究を多とするもの也。(阿部生)

高垣寅次郎著 銀行集中論

大正三年一月東京銀行集會所發行  
菊版一九五頁 定價 金六十錢

本書は高垣氏が東京高等商業學校專攻部銀行科に提出したる卒業論文にして、同科擔任佐野博士が審査せられたるものなり。